段ボールコンポストの手引き

桃山エコ推進委員会

段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、段ボール箱に土壌改良剤を入れ、好気性（酸素を必要とする）微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥をつくるものです。

段ボールは、通気性がよく、生ごみの水分を逃がしたり、発酵に必要な空気を通すのに適しています。においも少なく、場所も多く取らないので、集合住宅のベランダでも取り組むことができます。

用意するもの

段ボール箱

二重底用の
段ボール板

段ボールの選び方

＊みかん箱程度で基材に応じた大きさ
＊防水加工でないもの
＊厚手で強度のあるもの（二重構造）

＜基材＞

腐葉土

＋

もみ殻くん炭

＋

米ぬか

風通しのよい網目の台

スコップ

虫よけキャップ

※虫よけキャップは、レンジフードフィルター、不要になったシーツ、タオル、洗濯ネット（網目の細かいもの）などを使用し、段ボール箱の上部を覆って平ゴムで押さえるとよい。

段ボールコンポストのつくり方

＜手順＞

① 段ボールを組み立て、最小限のガムテープ（クラフト）で固定し、二重底を敷く。虫の侵入を防ぐため、隙間や穴を目張りする。

② 風通しのよい網目状の台に段ボールを置く。

③ 土・もみ殻くん炭を混ぜ、水を加える。水の目安は、土を握って形が崩れない程度がよい。

④ あらかじめ混ぜたものを段ボールの 6 割くらいまで入れる。

毎日の利用方法

＜生ごみ投入手順＞

① 前日に入れた生ごみ部分のみよくかきまぜる。
分解がおおよそ終わっていれば
土全体を混ぜ、空気を入れた方がよい

② 中心部に穴を掘って、生ごみを入れる。
分解を促進するため米ぬかを入れて
生ごみと混ぜる。

③ 上から基材をかぶせておく。
土を山のように盛り、スコップを差し込んでおくとよい。

④ 虫よけキャップをかぶせる。

生ごみ投入のポイント

・野菜や果物の皮・芯・切れ端などを入れる。魚や肉は臭いが強い。味のついた食べ残しは避ける。ご飯・パンなどはよい。
・1日小ボール1杯分程度（500～800g）投入でき、投入期間は3～6ヶ月程度。
・生ごみをなるべく細かくしてから入れる。野菜くずをざるに入れて水分を切る。
・タマネギ、トウモロコシ、タケノコ、ミカンの皮等の乾燥したものは、分解されるまでに時間がかかる。
・貝殻は分解しないので、投入しない。
・廃油、魚のあら、炭水化物は微生物の分解促進になる。
・卵の殻も分解するので、投入してもよい。
・しばらくの間投入を停止していた場合、水1リットル程度を加え、よくかきまぜれば、再開することができる。
・微生物が順調に分解していると、段ボールの中身が20～40℃程度まで上がる。

臭いと虫～傾向と対策

臭いの原因

・水分過多
・通気のよくない状態であったことや、
　スコップを使った空気の送り込み不足

事前の対策

・投入する前の生ごみの水切りをきちんとし、水分調節する。
・スコップを縦に差し込み、しっかりと空気を送り込む。

虫発生の原因

・段ボールコンポスト投入前の台所で
　生ごみに卵を産みつけられる。
・段ボールに卵を産みつけられる。

アメリカミズアブ

コウカアブ

事前の対策

・台所の生ごみも密封保管して、虫に卵を産ませない。
・段ボールコンポストにはきちんとガムテープで目張りし、
　毎日虫よけキャップをかぶせて卵を産ませない。

卵

熟　成

投入期間３～６ヶ月が経過し、分解に時間がかかると感じたときが、熟成を行う時期です。

＜熟成の必要性＞

段ボールコンポストへの生ごみ投入を終了した時点では、堆肥ではありません。
未熟な堆肥を土の中に入れると、土の中で熟成が始まり、植物の根を傷めることがあります。

＜熟成の手順＞

① １週間に１回程度１～２リットルの水分を加え、基材全体をよく混ぜて分解を促進します。
② 熟成期間は、夏期で２週間～１ヶ月、冬期で１ヶ月～２ヶ月程度で、生ごみの形がなくなり、水分を加えても温度の上昇がなければ、熟成完了となります。

段ボールを長く使うための注意！

◎雨が当たらないようにする。
◎風通しのよい場所に置く。
◎直射日光を長時間当てない。

寒い季節の工夫！

寒い季節は、微生物の働きを助けるよう、
次の工夫が必要です。
・日なたなど、暖かい場所に置く。
・廃油や米ぬかなど、カロリーの高いものを
　時々入れる。